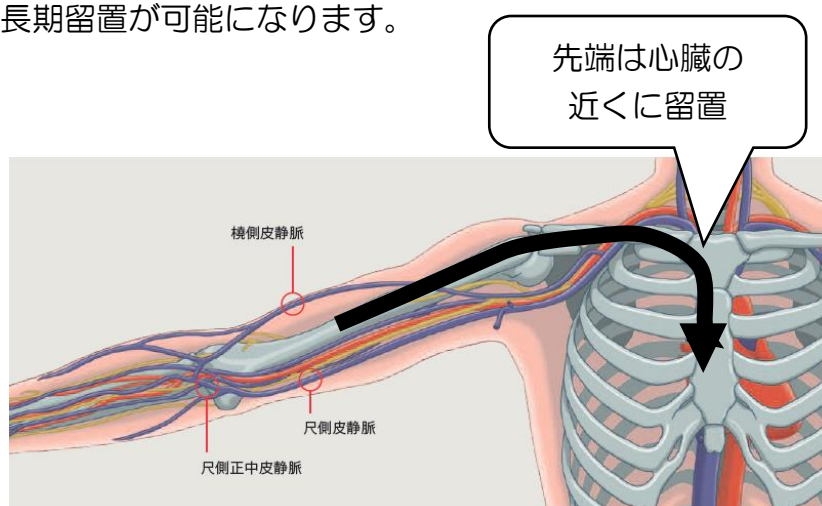
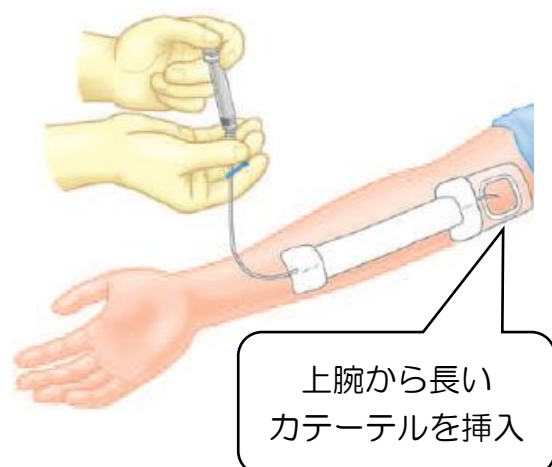


末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）説明書

1. 末梢挿入型中心静脈カテーテル

中心静脈は心臓に直接流入する太くて血流豊富な静脈で、特殊な薬剤の投与や圧測定、長期的な管理に適しています。腕の静脈から中心静脈まで挿入するカテーテルを末梢挿入型中心静脈カテーテルと呼び、頸部や鎖骨下などから挿入する従来型の中心静脈カテーテルと比較して、致死的な合併症が少ないのが特徴で、数か月に及ぶ長期留置が可能になります。



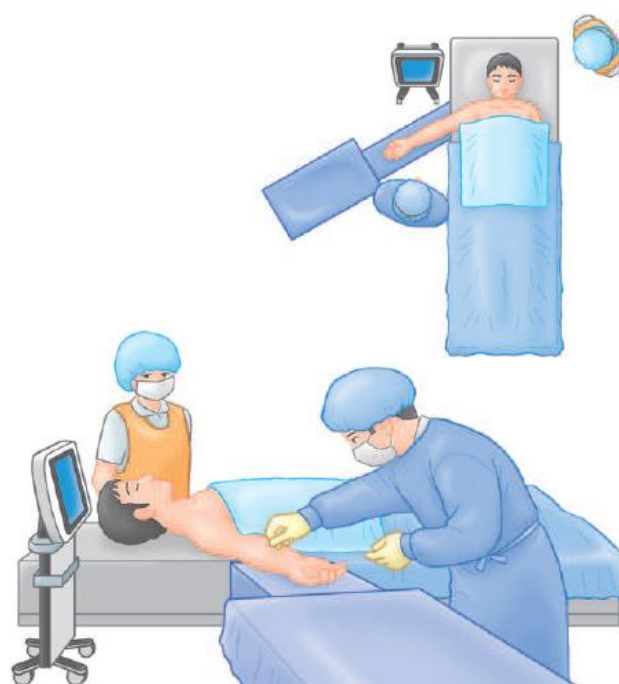
提供：カーディナルヘルス株式会社

2. 目的

- 循環作動薬（血圧や脈を安定させる薬）や鎮静薬、抗癌剤等の重要な薬剤を安全確実に投与する。
- 心不全やショック状態などの循環管理のために、中心静脈圧を測定する。
- 高カロリー輸液を投与して、栄養補給をする。
- 末梢血管の確保と維持が困難なため、長期に安定した点滴ラインとして使用する。
- 頻回に採血が必要な時の採血ラインとして使用する。

3. 方法

- ① 事前にエコー検査で静脈の走行を確認します。
- ② X線透視室で、腕を横に伸ばして仰向けになります。
所要時間は30分から1時間です。
- ③ 腕を消毒して大きな布で体を覆い、完全な清潔操作ですべての処置を行います。
- ④ 血管の位置をエコー検査で確認しながら、皮膚に局所麻酔をした後、針で静脈を穿刺します。
- ⑤ X線検査で確認しながら、ガイドワイヤーを心臓の近くまで挿入し、続いてカテーテルを挿入します。
- ⑥ 清潔下にテープで固定します。



4. 合併症

A. 処置時

- ① 動脈穿刺：並走する動脈を損傷することがあります。上腕の皮膚表面から動脈を圧迫して止血します。止血困難例では血腫（血液の塊）を形成しますが、追加処置が必要になることは極めて稀です。
- ② 神経損傷：稀に並走する神経を損傷し、局所に痛みやしびれが出現することがあります。
- ③ 空気塞栓：極めて稀に、穿刺針やカテーテルから空気を引き込んで、肺や脳などの血管に空気が詰まることがあり、不整脈や心不全、呼吸困難、脳梗塞に陥る可能性があります。
- ④ 不整脈：挿入時に使用するガイドワイヤーの刺激で起こり、稀に治療が必要になることがあります。
- ⑤ ガイドワイヤー穿孔：極めて稀に、ガイドワイヤーが血管壁や心臓の壁を穿孔すると、血胸（胸腔内に血液が溜まる）や縦隔血腫（気管や心臓の近くに血液が溜まる）、心タンポナーデ（心臓の周囲に血液が溜まる）に陥る可能性があります。
- ⑥ アレルギー：局所麻酔薬等アレルギー反応を起こすことがあります。蕁麻疹等の軽微な症状だけでなく、稀に重篤なアナフィラキシーショックになり、呼吸困難や循環虚脱に陥ることがあります。
- ⑦ その他：予期せぬ合併症が起こることがあります。

B. 留置中

- ① 静脈炎：カテーテルの器械的刺激や局所感染が原因で、局所の発赤や疼痛を起こします。
- ② 感染症：カテーテルの感染が全身に拡がると、発熱等を起こし、稀に敗血症性ショックに陥ります。
- ③ 血栓症：カテーテルにより血流が妨げられて血栓（血液の塊）を形成することがあり、稀に全身血栓症や肺塞栓症の原因になることがあります。
- ④ カテーテル閉塞：カテーテル屈曲または血栓や薬の結晶によりカテーテルが閉塞することがあります。
- ⑤ カテーテルの血管外逸脱：極めて稀に、カテーテルの先端が自然に血管外へ穿破して、輸液や血液が胸腔や縦隔に溜まることがあります。
- ⑥ カテーテル断裂：極めて稀に、自己抜去などの外的要因等で断裂し、カテーテルの一部が体内に遺残し、心臓や肺の血管に迷入することがあります。
- ⑦ その他：予期せぬ合併症が起こることがあります。